



部会だより

コロイドおよび界面化学部会

2021 年度 部会各賞の紹介

はじめに

コロイドおよび界面化学部会では、コロイドおよび界面化学分野で顕著な業績をあげられた研究者・技術者を表彰するために Lectureship Award (LA), 科学奨励賞および技術奨励賞の各賞を設けております。以下に 2021 年度の受賞者について紹介させていただきます。

Lectureship Award

LA 賞は、「当該分野で著しい活躍をされている、あるいは将来この分野での活躍が期待される海外の研究者」に対して授与される国際賞です。本年度は、

- ・ Jérôme F.L. Duval 先生 (Laboratoire Interdisciplinaire des Environnements Continentaux (LIEC), France)
- ・ Frank Caruso 先生 (The University of Melbourne, Australia)

のお二人が受賞されました。

Jérôme F.L. Duval 先生は、University of Wageningen において学位を取得された後、フランス CNRS の研究者として Nancy Lorraine 大学に職を得られ、2013 年には 36 歳の若さで CNRS Research Director に就任されています。不均一な界面の問題に対して理論と実験の両面から取り組み、卓越した成果をあげられています。また、最近の研



Jérôme F.L. Duval 先生

究成果としては、AFM を活用した細胞レベルでのバクテリアの付着力測定、腐植物質のイオン吸着の理論解析等が挙げられます。

Frank Caruso 先生は、Melbourne 大学で博士号を取得された後、2003 年からは同大学の教授として精力的に研究を展開されています。Caruso 教

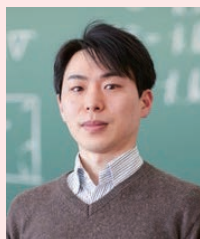
授の研究対象は多岐にわたり、特に自己組織化技術を活用して、コロイド粒子の表面をナノレベルで機能化する手法の開発を行い、得られた材料をドラッグデリバリーやバイオセンサーなどへ応用展開する研究は世界的に広く知られています。また、英国 Royal Society から Leverhulme Medal を授与 (2019 年) される等国際的な賞も多数受賞されています。



Frank Caruso 先生

科学奨励賞・技術奨励賞

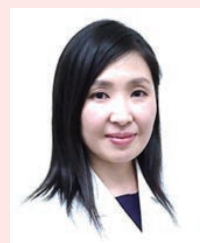
若手研究者に対して授与される「科学奨励賞」は、名城大学の天野健一先生が「コロイド粒子の密度分布や二体ポテンシャルに関する逆計算」のタイトルで受賞されました。天野先生は、種々の実験データから、液中におけるコロイド粒子間の密度分布 (動径分布関数) や二体ポテン



天野健一 先生

シャル、基板近傍におけるコロイド粒子の密度分布を逆計算する方法を開発された点が評価されました。

また、企業の若手研究者に対して授与される「技術奨励賞」には、株式会社資生堂の杉山由紀氏が選ばれました。両末端疎水化トリブロック共重合体による油中の紐状逆ミセル形成を利用したレオロジーコントロール技術の開発、界面活性剤と粉末の両方の長所を組み合わせた新しいコア/シェル型ポリマー粒子乳化剤の開発等、機能性化粧品の開発に関して顕著な業績を挙げられている点が高く評価されました。



杉山由紀 氏

おわりに

受賞者の先生方には、9月15日から17日に開催されるコロイドおよび界面化学討論会においてオンライン講演をしていただく予定になっておりますので、ぜひご聴講下さい。また、2022年度の各賞の募集も実施いたします。科学奨励賞・技術奨励賞は、若手研究者によるコロイドおよび界面化学の研究分野のますますの活性化を期するものでありますので、積極的な応募をお願い申し上げます (詳細は部会 HP (<https://colloid.csj.jp>) をご確認ください)。

〔副部会長・賞選考委員長 酒井秀樹 (東理大理工)〕

© 2021 The Chemical Society of Japan